巻　頭　言

セルフマネジメント支援に必要な「専門性」「当事者性」「他者性」について

学長　安酸　史子

医療者には、患者のセルフマネジメントを支援する力が求められている。私は、セルフマネジメント支援の方法として、「症状マネジメント」、「徴候マネジメント」、「ストレスマネジメント」について提唱してきた（安酸，2010，2015）。看護基礎教育課程では、患者に巻き込まれてはいけない、患者や家族の前で泣いてはいけないと徹底して教え込まれてきた経験を持つが、現在では医療者がセルフマネジメント支援をするためには、ときには患者（当事者）に巻き込まれる勇気と覚悟を持つことが必要だと考えている。

当事者とは、「起きている問題を現場で直に体験し、影響を受けている個人のことをいう。対義語は第三者」とあり、もともと民事裁判等で使用されてきた法律用語で、「障害者に対するパターナリズム、管理主義、専門家主導主義」に抗するための主体としての意味が含まれている（志賀，2013）。

一方、専門家とは、当事者に替わって、当事者よりも本人の状態や利益について、より適切な判断を下すことができると考えられている第三者のことである。

「当事者性」とは、他者と関わる実践と対話を通じて、つまり関係性において育まれる、「生きにくさ」を生み出している世界のあり方に自覚的になる態度や志向を意味する。「当事者性」は関係性、相互性において生成、変容する概念であり、それを平野 (2012) は「関係性としての当事者性」と名づけている。また平野は、学習者が、学習や活動の客体ではなく、言説の担い手として主体的になっているかが重要だと述べている。さらに学習や実践の場が、援助者－非援助者、教育者－学習者という関係の抑圧性、権力性、啓蒙性の転換を促すものになりえているかであり、その転換を促すものとして教育者－学習者という関係が対話的であることが条件となると当事者性を生み出す条件について述べている。実践のあらゆる場面で「対話」が継続されていることが重要であり、主体的になるまでの教育者－学習者という関係の対話性のみならず、他の当事者との「対話」が継続されることで、学習者自身が自省的な問いを持ち、自らの認識や実践が誰かの存在や権利を否定することがないかを問い直すことが出来るとしている。

私の専門である糖尿病看護の専門家で考えれば、進化していく糖尿病に関する専門的知識と技術を身に付ける努力を継続し、「専門性」を極めることが第一義的に重要である。そのうえで、糖尿病患者（当事者）の問題と出会い、糖尿病患者との継続的な対話によって、その問題を自分の問題として捉え、その問題解決のために考え、行為するという一連の過程によって、当事者性が深まっていくと言える。専門家は当事者との対話を維持することによって当事者性を高めていくことができる。当事者は当事者性を大切にした専門家には自らの困りごとを率直に語ることが出来る。その対話の中で、専門家は専門性を高める必要性にも気づいていく。当事者の困りごとに気づく感性をもって、専門家としてその困りごとの解決策を一緒に考え支えることが、当事者性を大切にしたセルフマネジメント支援と言えるのではないかと考えている。

加えて、「当事者性」と同じくらいに重要なのが「他者性」の概念である。藤岡 (2000) は「臨床的教育学」のキーコンセプトの一つとして「他者性」をあげている。経験は全く独自的創造的なものであり、他者によって代替不可能なものである。まして外部の誰かが操作して替わることができないものである。それが、「他者性」の概念の根幹である。相手は自分にとって未知の、そしてこれからも決して知り尽くすことのできない他者である。これが絶対的他者の自覚であるとし、我々はその「あいだ」を生きなければならない。それは我々に関わることへの意志を要請すると述べている。つまり、「他者性」の自覚があるからこそ、関わることへの意志をもつ必然性が出てくると言えるのではないだろうか。

当事者性を持つことはセルフマネジメント支援のために必須である。時には患者に巻き込まれる勇気を持ち、巻き込まれても戻ってくる毅然とした力も専門家には求められる。専門性を高める努力と、他者性を意識しながら当事者性を維持する努力をしつづけることによって、専門家としてのセルフマネジメント支援の力をつけ

ていくのだと考えている。

文献

藤岡完治（2000）．関わることへの意志．p10．国土社.
平野 智之 (2012).「関係性としての当事者性」試論 ： 対話的学習モデルの検討から．人間社会学研究集録 7, 99-119．http://doi.org/10.24729/00002944 [2023.10.31 閲覧]
志賀文哉 (2013)．支援と当事者性，とやま発達福祉学年報， 4 ,pp.11-16.
安酸史子 (2010)．糖尿病患者のセルフマネジメント教育．メディカ出版
安酸史子編 (2015)．ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント．メディカ出版